

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200194		
法人名	有限会社ライフクリエーション		
事業所名	グランマ「カノン」	ユニット名	1F ミント
所在地	静岡県浜松市西区村櫛町3963		
自己評価作成日	平成27年 7月11日	評価結果市町村受理日	平成27年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://saku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297200194-00&amp;Pref">saku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297200194-00&amp;Pref</a>
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成27年7月28日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、“人間としての尊厳を大切に”という理念を第一に掲げています。個人の意志や自由を最大限尊重し、誇り高い生活を送っていただくという理想の元、職員は、利用者の方々を日々お世話する中で自問自答しながら、また、職員間で話し合いながら、目標に向かって努力しています。豊かな自然に囲まれた環境は、利用者の心を穏やかに優しくしてくれます。庭に出てお茶を飲んだり、風や光を感じながら散歩することで、人間本来の働きを回復していきます。利用者の方々がいっまでも元気でいられるように、脳リハビリを毎日楽しく行っており、利用者の皆様が別名“グランマ学園”と呼んでくれています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一法人が運営する二つ目の認知症グループホームとして開設5年目を迎えた事業所である。今までの経験と利用者や家族のニーズを捉えながら運営されている。培ってきた利用者・家族や地域住民との信頼関係は、支援の現場における職員の拠り所となっている。管理者の指導力と全職員の連携で、利用者・家族等関係者が安心できる支援が実践されている。今後の課題として、職員教育や地域貢献等の法人主導のプログラムの推進や、利用者一人ひとりに対するケアの経験値を体系的に記録し、業務内容の詳細を「見える化」するなど、関係者が希望する上質なサービスを、継続して提供するための仕組みを整備する取り組みが期待される。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、理念を明確に理解しており、その理念のもとに各自が深く掘り下げた理念を共有し、実践・具体化している。	法人共通の理念を明文化し、地域密着型サービスの意義を、職員一人ひとりが考え共有する取り組みを実践している。利用者の笑顔は満足度のバロメーターであるとの職員コンセプトがあり、掲示してモットーとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日、散歩時、公園でグランドゴルフをしている地域の方々と話を交わす。祭り・運動会・催し物に参加。地域の方々の踊り、音楽の訪問あり。	ホームページで事業所の情報を発信し、自治会の会員として地域の行事にも積極的に参加している。施設周辺は毎日の散歩道であり住民と交流できる環境があり、地域から多くのボランティアも事業所を訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の小・中・大学生が夏休みなど研修の場として訪れている。いつでも見学・相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区役所、自治会、老人会、職員、家族代表が出席し、和気あいあいと話が進む。そこで提案されたものは職員と意見交換しサービス向上に活かしている。	隣接の事業所と同日に時間を分けて開催している。事業所別にプライバシー保護の必要な議題の扱いに配慮しながら、参加者の負担も考慮して効率よく活発に意見交換のできる、双方向的な会議への工夫が望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所介護保険課・区役所・介護相談員とも連絡を密にとり、ご指導を頂きながらグランマの様子を分かっている。	行政の窓口に出向き、担当者にケアの取り組み等相談し助言を受けている。担当者とはできる限り連携して信頼関係を築くことに努めている。介護相談員の制度も活用し、事業所の現状について意見交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関・室内のカギをかけている。日中はすべての窓・玄関にカギをかけない。(職員は見守りを怠らないようにしている。)身体拘束は一切なし。	身体拘束をしないケアの実践に努めている。管理者は、夜間の防犯上必要な玄関の施錠以外は行わず、身体的・言語的・薬物等による拘束にも特に注意を払って対応している。職員研修の方法に工夫の余地がある。	身体拘束に関する指定基準で禁止対象としている、具体的な行為を正しく理解するための研修等の取り組みを、法人主導の下で実践していくことが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はいかなる時でもあってはならないことと職員一同理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長が民生委員時に学んだことがあるので、概ね職員には説明されている。ハノンでは一人利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関してはきちんと保証人と話し合い、両者納得の上、行われている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との信頼関係を築いているので、思っていること・要望をお互いに遠慮なく話し合っている。当然運営にも反映させている。	主に利用者家族が作成・編集しているホームページに事業所の情報を公開し、家族の面会時には丁寧に意見交換するなどの対応で意思疎通を図り、利用者、家族等が意見や要望を自由に表せる環境を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員とコミュニケーションをとり、意見・提案を言いやすいようにしている。	管理者は現場での職員との連携を重視し、毎月提出される「仕事チェック表」で日常業務を把握すると共に、面談の機会を多く設け職員意見を運営に反映している。他方、面談の記録方法の工夫が必要な状況である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすく、希望の持てる職場環境を作ることと職員の定着を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個性を生かし、良いところは伸ばし、未熟なところは皆でフォローしながら、できるだけ研修の場を多くし、ケアの質を高める努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会の門戸を広げている。相互訪問で良いところを学ぶ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人や家族と面談をし、どのように接したら安心していただけるかを職員同志で話し合っておく。その方が望んでいるものを把握し、適切なケアをする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安を感じないようにしっかりとコミュニケーションをとり、信頼してもらう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの第2の家族になれるように信頼を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を年2回開いている。家族の方々の訪問時、努めて近況報告をすることにより、十分な信頼関係を築き、何でも話して頂けるようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が訪問された時には、部屋でお茶とお菓子をお出しし、お家にいるような雰囲気を楽しんでいただいている。	年2回の家族会の開催等で、家族等関係者の面会支援をしている。これまでの馴染みの関係継続を重視した取り組みを実践するにあたり、友人や知人を含めた関係者が訪問しやすい環境づくりを心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、仲を取り持ち、楽しい生活が送られるようにコーディネートし、適切なアドバイスをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	責任を持って利用者さんの将来を考えて、次の施設の紹介をしている。転院先にも面会にいったり、退去後お亡くなりになった場合、ご連絡を下さるので通夜・告別式にも顔をだしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、入所後のアセスメントをしっかり行っている。	今までの生活と事業所での新しい環境に関し、丁寧にアセスメントを行っている。家族面談等の情報や、職員が得た日常の状況を手順に従い記録に残し、職員間で共有して利用者一人ひとりの理解に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、生活歴を記入してもらい把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、個別に観察に努め把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が感じている個人別のケアを話し合っ、介護計画に反映している。	主に管理者やケアマネジャー・計画作成担当者が、利用者個々の介護経過記録や職員のモニタリング及び看護師意見等を基に、生活援助計画や介護計画書等の作成に携わる。家族と話し合い、意見を反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	グランマ独自のものを作成し、活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各自の希望を聞いたり、気分や体調を職員が把握し、気分転換を図るとかきめ細かな対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	四季の変化のある田園風景を眺めながらの毎日の散歩、庭で土いじりするなど自然に恵まれた環境の中で人間らしさを感じられる生活をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・医師と十分な連絡がとれている。(内科医と精神科医を分けている。)	本人や家族の希望する医療機関を受診できるよう配慮している。受診には職員が付き添い、情報は家族と共有している。看護師及び協力医療機関と適切に連携し、納得のいく医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、365日朝晩勤めてくれている。顔色を見たり、職員の報告で健康状態を観察してくれているので皆さん大変お元気でいられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	聖隷三方原病院とのパイプができています。その他開業医とも信頼関係が保たれている。経営者の家族が医師なのでいつでも相談できる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・ご本人の希望に添えるよう話し合いをして決めている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針を明文化している。契約の段階で方針を説明し、同意を得ている。重度化などの状況に応じて、家族等と話し合い、要望に添うことのできるような支援に努めている。	重度化や終末期における事業所での支援のあり方を、状況に応じて家族と話し合いを重ねる意義や、全関係者との連携の必要性を、全ての職員で繰り返し話し合う取り組みを継続していくことが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今まで救急車を呼ぶ場面でのようにしたら迅速に病院に行けるか、それまでの応急処置をどのようにするかは訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルはできている。経営者が地元なので、自治会と密に連絡がとれるようになっている。又、有事には施設を開放することも了解している。	水害に備えて関係者全員のライフジャケットを備えている。近隣のホテルを緊急の避難場所として連携する約束をしている。定期的に防災訓練を実施しており、今後は地域防災訓練への参加等を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の、尊厳につながる問題として、常に意識して実行している。	隔月ごとに研修を実施している。利用者の尊厳を守り、プライバシーを損ねない支援の大切さを共有して職員の理解を促している。常に基本理念に立ち返り、一人ひとりを尊重するケアの実践につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も個人の意志を尊重し、希望がかなうように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日、個々の体調に気を配りコミュニケーションをとりながら、希望を聞き入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は出勤したら、皆様の身だしなみをチェックし、汚れがないか、華やいだ雰囲気か、など気を使っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事が好きな方とともに、食事が楽しく、明日へのエネルギーになるものを料理し、作り立てを提供している。	事業所内で全ての食事を調理している。管理栄養士が利用者の嗜好も配慮して献立を作成する。職員は、利用者が可能な範囲で調理や配膳・片付けなどを行い、食事の時間を楽しく過ごせるように気配りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的なことを十分把握しており、個人個人にあった量や大きさなどにも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で行ける方は応援し、誘導が必要な方は定期的にと細かい配慮をしている。	利用者一人ひとりの記録を基に、個別に誘導のタイミングや声掛けの方法等を工夫し、人格の尊重やプライバシーにも配慮し、精神的かつ身体的に安定した状態の維持に努めて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を良くすることがケアの原点と認識しており、水分や繊維の多いものを多く摂取するように努めている。ヨーグルトは毎朝食後にお出している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、1日おき。順番や入り方は個人の自由にして、自立の方はお友達と入ることもある。	一日おきの入浴を基本としているが、日時を問わず、可能な限り希望に添うように努めている。高齢者の肌に刺激の少ない全身シャンプーを使用するように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間、庭に出たり、毎日の散歩で日光に当たるので、メラトニンという物質が出て、夜はぐっすり眠れる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が把握している。(効果と副作用)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1週間に一度は外出をし、買い物・食事・ドライブを楽しんでいる。趣味や特技に応じた展覧会などにも外出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設で外出すること以外にも、家族と一緒に出かけたり、自宅に泊まることもある。施設では楽しい催し物のチャンスにお連れできるようアンテナを高めている。	周辺の道路は車の往来が少なく、事業所の庭園には落ち着いて歓談のできるベンチがあるなど、毎日散歩に出かけられる環境が整っている。近隣には大きな花の公園があり、リゾートホテルの喫茶室も利用できる。可能な限り戸外での気分転換を図っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布のなかに少額を入れて持っている方が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いたり、電話がかかってくることもある。はがきを常に持っていてご自分から送っている方もいる。携帯電話は問題が多すぎる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然環境に恵まれているので十分満たしていると思う。	居間と食堂・応接スペースは、一体的に利用可能であり広々として明るい。飾られた花や廊下壁面の絵画は落ち着いた雰囲気醸しだしている。居間や廊下の椅子も寛げるスペースとして活用されている。水周りの共用空間は清掃が行き届き清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の時間と共同の時間を作り、皆様十分楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に家族の写真を置いたり、野の花を活けたりして清潔で、明るい雰囲気になっている。	居室には利用者の希望するものを持ち込み、飾ることができる。本人と家族が相談して、使い慣れた馴染みの家具や品物を配置し、自分好みの室内で居心地よく過ごす事が出来るように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の中は、事故の起こりにくい安全な場所として提供されている。利用者が能力を十分に発揮できるように工夫・支援をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200194		
法人名	有限会社ライフクリエーション		
事業所名	グランマ「カノン」	ユニット名	2F ラベンダー
所在地	静岡県浜松市西区村櫛町3963		
自己評価作成日	平成27年 7月11日	評価結果市町村受理日	平成27年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://saku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297200194-00&amp;Pref">saku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297200194-00&amp;Pref</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成27年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、“人間としての尊厳を大切に”という理念を第一に掲げています。個人の意志や自由を最大限尊重し、誇り高い生活を送っていただくという理想の元、職員は、利用者の方々を日々お世話する中で自問自答しながら、また、職員間で話し合いながら、目標に向かって努力しています。豊かな自然に囲まれた環境は、利用者の心を穏やかに優しくしてくれます。庭に出てお茶を飲んだり、風や光を感じながら散歩することで、人間本来の働きを回復していきます。利用者の方々がいっまでも元気でいられるように、脳リハビリを毎日楽しく行っており、利用者の皆様が別名“グランマ学園”と呼んでくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、理念を明確に理解しており、その理念のもとに各自が深く掘り下げた理念を共有し、実践・具体化している。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日、散歩時、公園でグランドゴルフをしている地域の方々と話を交わす。祭り・運動会・催し物に参加。地域の方々の踊り、音楽の訪問あり。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の小・中・大学生が夏休みなど研修の場として訪れている。いつでも見学・相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区役所、自治会、老人会、職員、家族代表が出席し、和気あいあいと話が進む。そこで提案されたものは職員と意見交換しサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所介護保険課・区役所・介護相談員とも連絡を密にとり、ご指導を頂きながらグランマの様子を分かっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関・室内のカギをかけている。日中はすべての窓・玄関にカギをかけない。(職員は見守りを怠らないようにしている。)身体拘束は一切なし。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はいかなる時でもあってはならないことと職員一同理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長が民生委員時に学んだことがあるので、概ね職員には説明されている。ハノンでは一人利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関してはきちんと保証人と話し合い、両者納得の上、行われている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との信頼関係を築いているので、思っていること・要望をお互いに遠慮なく話し合っている。当然運営にも反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員とコミュニケーションをとり、意見・提案を言いやすいようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすく、希望の持てる職場環境を作ることと職員の定着を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個性を生かし、良いところは伸ばし、未熟なところは皆でフォローしながら、できるだけ研修の場を多くし、ケアの質を高める努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会の門戸を広げている。相互訪問で良いところを学ぶ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人や家族と面談をし、どのように接したら安心していただけるかを職員同志で話し合っておく。その方が望んでいるものを把握し、適切なケアをする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安を感じないようにしっかりとコミュニケーションをとり、信頼してもらおう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの第2の家族になれるように信頼を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を年2回開いている。家族の方々の訪問時、努めて近況報告をすることにより、十分な信頼関係を築き、何でも話して頂けるようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が訪問された時には、部屋でお茶とお菓子をお出しし、お家にいるような雰囲気を楽しんでいただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、仲を取り持ち、楽しい生活が送られるようにコーディネートし、適切なアドバイスをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	責任を持って利用者さんの将来を考えて、次の施設の紹介をしている。転院先にも面会にいたり、退去後お亡くなりになった場合、ご連絡を下さるので通夜・告別式にも顔をだしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、入所後のアセスメントをしっかり行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、生活歴を記入してもらい把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、個別に観察に努め把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が感じている個人別のケアを話し合っ、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	グランマ独自のものを作成し、活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各自の希望を聞いたり、気分や体調を職員が把握し、気分転換を図るとかきめ細かな対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	四季の変化のある田園風景を眺めながらの毎日の散歩、庭で土いじりするなど自然に恵まれた環境の中で人間らしさを感じられる生活をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・医師と十分な連絡がとれている。(内科医と精神科医を分けている。)		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、365日朝晩勤めてくれている。顔色を見たり、職員の報告で健康状態を観察してくれているので皆さん大変お元気でいられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	聖隷三方原病院とのパイプができています。その他開業医とも信頼関係が保たれている。経営者の家族が医師なのでいつでも相談できる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・ご本人の希望に添えるよう話し合いをして決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今まで救急車を呼ぶ場面でのどのようにしたら迅速に病院に行けるか、それまでの応急処置をどのようにするかは訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルはできている。経営者が地元なので、自治会と密に連絡がとれるようになっている。又、有事には施設を開放することも了解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の、尊厳につながる問題として、常に意識して実行している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も個人の意志を尊重し、希望がかなうように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日、個々の体調に気を配りコミュニケーションをとりながら、希望を聞き入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は出勤したら、皆様の身だしなみをチェックし、汚れがないか、華やいだ雰囲気か、など気を使っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事が好きな方とともに、食事が楽しく、明日へのエネルギーになるものを料理し、作り立てを提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的なことを十分把握しており、個人個人にあった量や大きさなどにも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で行ける方は応援し、誘導が必要な方は定期的にと細かい配慮をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を良くすることがケアの原点と認識しており、水分や繊維の多いものを多く摂取するように努めている。ヨーグルトは毎朝食後にお出している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、1日おき。順番や入り方は個人の自由にして、自立の方はお友達と入ることもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間、庭に出たり、毎日の散歩で日光に当たるので、メラトニンという物質が出て、夜はぐっすり眠れる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が把握している。(効果と副作用)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1週間に一度は外出をし、買い物・食事・ドライブを楽しんでいる。趣味や特技に応じた展覧会などにも外出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設で外出すること以外にも、家族と一緒に出かけたり、自宅に泊まることもある。施設では楽しい催し物のチャンスにお連れできるようアンテナを高くしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布のなかに少額を入れて持っている方が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いたり、電話がかかってくることもある。はがきを常に持っていてご自分から送っている方もいる。携帯電話は問題が多すぎる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然環境に恵まれているので十分満たしていると思う。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の時間と共同の時間を作り、皆様十分楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に家族の写真を置いたり、野の花を活けたりして清潔で、明るい雰囲気になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の中は、事故の起こりにくい安全な場所として提供されている。利用者が能力を十分に発揮できるように工夫・支援をしている。		